

将来にわたる児童生徒の教育環境の充実に向けた 学校施設整備に係る基本方針

令和 7 年 3 月
岡 垣 町

1. はじめに

学校や公民館、文化施設などの教育施設、道路・上下水道・公園などの生活施設、治山・治水といった国土保全のための施設など、社会資本（インフラ）の多くは、高度経済成長期からバブル経済成長期に集中的に整備され老朽化が進行しています。本町においても公共施設の 6 割以上が築 30 年を経過し、老朽化に伴う維持管理・更新費用の増加が見込まれています。

今後は、岡垣町公共施設等総合管理計画に基づき、公共施設の維持管理や更新費用の抑制に努めるとともに、人口減少社会に対応していくため、地域の実情に応じた適正な教育施設の配置などの検証を進めていく必要があります。

また、近年では society5.0 時代として社会のあり方が変化しつつある中で、学校施設には個別最適な学びと協働的な学びなど、新しい学びの実現に向けた学習空間づくりが求められています。

本紙は、地域や社会の状況を踏まえ、老朽化している学校施設に関して、将来の児童生徒の教育環境の充実に向けた学校施設整備に係る基本方針をまとめるものです。

なお、この基本方針は、方針策定時点における地域や社会の状況を基としたものであり、今後、社会情勢や地域の実情に変化が生じた場合には、必要に応じて随時見直しを行います。

2. 町内学校施設等の現状と課題

町立小・中学校の校舎や体育館などの現有施設は、多くが昭和 40 年代から 50 年代にかけて建築されました。これらの施設について町では、耐震補強、外壁や屋上防水の改修、トイレの洋式化、空調整備など、施設や設備の改修等を行い、教育環境を整備、維持してきました。町内で最も新しい山田小学校の校舎は築 23 年と比較的新しいですが、その他の学校の校舎は築 40 年以上を経過しており、これからの 20 年は学校施設の改築等が大きな課題となります。

学校の改築等には、国庫負担の制度があるものの町においても多額の予算が必要となることから計画的に進める必要があります。これらに加え、今後、少子高齢化が進み、町全体の人口減少が進んでいく中で、児童生徒数も減少して

いく見込みです。

一方、建築及び維持管理費用等の削減という財政的な目線だけでは、学校教育に求められる教育効果を達成することは困難です。

このような状況において、一番大切にすべき事項は「将来にわたる児童生徒の教育環境の充実」であり、学校施設の改築の際には、ソフト・ハードの両面から教育環境を充実させる必要があります。

(1) 町立小・中学校（主な校舎）の建築年と経過年数

学校名	建築年	経過年数
岡垣中学校	昭和 36 年	64 年
内浦小学校	昭和 40 年	60 年
吉木小学校	昭和 41 年	59 年
戸切小学校	昭和 43 年	56 年
海老津小学校	昭和 52 年	48 年
岡垣東中学校	昭和 56 年	44 年
山田小学校	平成 13 年	23 年

(2) 今後の児童生徒数の見込み

学校名など			2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
内浦 小学校	児童数(全体)		60	56	54	50	46	43	41	37
	1 学年 当たり	児童数	10	9	9	8	8	7	7	6
		学級数	1	1	1	1	1	1	1	1
海老津 小学校	児童数(全体)		621	575	555	513	470	437	412	386
	1 学年 当たり	児童数	104	96	93	86	78	73	69	64
		学級数	3	3	3	3	3	3	2	2
戸切 小学校	児童数(全体)		68	63	61	56	52	48	45	43
	1 学年 当たり	児童数	11	11	10	9	9	8	8	7
		学級数	1	1	1	1	1	1	1	1
山田 小学校	児童数(全体)		627	580	559	518	474	441	416	390
	1 学年 当たり	児童数	105	97	93	86	79	74	69	65
		学級数	3	3	3	3	3	3	2	2
吉木 小学校	児童数(全体)		271	251	242	224	205	190	180	169
	1 学年 当たり	児童数	45	42	40	37	34	32	30	28
		学級数	2	2	2	2	1	1	1	1
			1, 647	1, 525	1, 471	1, 361	1, 247	1, 159	1, 094	1, 025

(単位：人)

学校名など			2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
岡垣 中学校	生徒数(全体)		492	441	418	400	368	336	315	297
	1 学年 当たり	生徒数	164	147	139	133	123	112	105	99
		学級数	5	4	4	4	4	3	3	3
岡垣東 中学校	生徒数(全体)		410	368	349	332	306	280	262	247
	1 学年 当たり	生徒数	137	123	116	111	102	93	87	82
		学級数	4	4	3	3	3	3	3	3
			902	809	767	732	674	616	577	544

※全体児童数（生徒数）は、第 6 次総合計画作成時に調査した町の総人口の推計資料を元に、令和 3 年度の児童生徒数で案分し算出。

※学級数は、小学校を 1 学級 35 人、中学校を 40 人として算出。

（３）学校と地域との関わりについて

小・中学校は児童生徒の教育のための施設であるだけでなく、各地域のコミュニティの核としての性格を有することが多く、防災、学童保育、地域の交流の場等、様々な機能を併せ持っています。また、学校教育は地域の未来の担い手である子どもたちを育む営みでもあり、まちづくりの在り方と密接不可分であるという性格も持っています。

なお、町立小・中学校は避難所に指定されていますが、一部の学校においては土砂災害警戒区域などが敷地内に含まれています。そのため、学校施設更新の際には、防災面から適正な立地であるか検討することも重要です。

３．これまでの取組

学校施設の配置や整備などに関しては、他の公共施設の配置や地域コミュニティの観点などまちづくり全体を捉え、町長部局と教育委員会とが連携のもとで検討し、数十年先を見据えた慎重で丁寧な議論や準備が求められます。

町の学校施設整備については、平成 20 年から平成 25 年にかけて実施した耐震改修工事、平成 30 年から令和元年にかけて実施した空調整備など、大規模な改修工事を行う際に老朽化した学校施設の今後の整備の在り方について検討をしてきました。また、平成 29 年には岡垣町公共施設等総合管理計画を策定し、公共施設等の管理・整備に関する基本的な考え方や施設類型ごとの整備方針を定めました。

このようにして、現在の学校施設を維持管理してきましたが、築年数の増加とともに施設や設備の老朽化に伴う部分的な修繕等では教育環境の充実を図ることが難しくなっている状況にあることから、令和 5 年度に「岡垣町学校施設適正配置検討委員会」を設置し、まずは最も建築年数が古い岡垣中学校の施設整備をどのように行うべきか集中して検討を始めました。

4. 基本方針

今後の学校施設整備に際しては、国の新たな教育制度を踏まえつつ、学校の教育的役割、児童生徒数や学級数の将来推計、学校の小規模化に伴う課題、小中一貫教育の在り方などを踏まえ、次の方針に基づき進めることとします。

(1) 適正規模について

- 適正規模の基本的な考え方
- 小規模校について

(2) 小中一貫教育について

- 導入の背景と町の基本的な考え方
- 町の取組と短期的な展望
- 中長期的な展望

(3) 岡垣中学校の施設整備について

（１）適正規模について

～法令上の学校規模の標準に準じるが、学校全体の児童生徒数なども考慮～

学校教育法施行規則において、学校規模の標準は、学級数により設定されており、小・中学校ともに「12 学級以上 18 学級以下」が標準とされています。学校施設の更新の際は、基本的にこの標準を適正規模として進めることとします。

ただし、この標準は「特別の事情があるときはこの限りでない」という弾力的なものとなっていることから、1 学級当たりの児童生徒数や学校全体の児童生徒数、それらの将来推計などの観点も合わせて総合的な検討を行う必要があります。

	学級規模の標準 (小学校)	学校規模の標準 (中学校)
1 校あたりの学級数 ※普通学級の数	12 学級～18 学級 (1 学年あたり 2～3 学級)	12 学級～18 学級 (1 学年あたり 4～6 学級)

(参考) 令和 6 年 5 月 1 日現在の学級編制

学校名	児童生徒数	学級数（普通学級のみ）
内浦小学校	73 名	6 学級
海老津小学校	669 名	21 学級
戸切小学校	61 名	6 学級
山田小学校	631 名	19 学級
吉木小学校	299 名	12 学級
小学校計	1,733 名	64 学級
岡垣中学校	496 名	13 学級
岡垣東中学校	358 名	10 学級
中学校計	854 名	23 学級
合 計	2,587 名	87 学級

【小規模校について】

～現状の学級数が適正規模を下回っていることのみを理由とした対応を直ちに実施すべき状況にはない。一方で施設等の老朽化に伴う対応を進める必要があり、その際には小規模校の在り方を併せて検討。～

学校施設を更新する際の適正規模の方針は前述のとおりですが、現時点において既にこの標準を下回る学校もあります。適正規模を大きく下回る小規模な学校は学校運営上の課題等がある一方で、少人数を生かした指導の充実を図ることができるいった側面もあるため、小規模校に係る現時点の方針を整理する必要があります。

現在、内浦小学校と戸切小学校は、学校規模の標準を大きく下回っています。学校の規模が小さくなると、学校運営上の課題として「クラス替えができない」「クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない」などといったことや、児童生徒への影響として「多様な物の見方や考え方に触れることが難しい」などといった課題があると言われています。

一方で、小規模な学校は少人数だからこそできる「一人一人の学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導」や「町の教育資源を最大限に生かした教育活動の展開」などの利点があります。

内浦小学校と戸切小学校では、校区外からの通学を認める特認校制度を導入しています。近年、特認校制度を利用し、このような個に応じた指導など小規模校での学びを選択する児童が増えています。また、小規模校があることによって安心して教育を受けることのできる児童がいるなど、現在の小規模校は一定の効果が認められている状況です。

このようなことから、学校規模だけに捉われず、学校施設の適正配置を検討する必要があります。

前述のとおり小規模校は一定の効果が認められていることから、現状の学級数が適正規模を下回っていることのみを理由に、対応を直ちに実施すべき状況にはありません。しかし、児童数の減少に伴い、学校運営上の課題等が顕在化しつつあるため、今後も注視していきます。

一方で、施設や設備の老朽化が進んでいることから、施設面での対応の検討が必要です。その際、小規模校の在り方についても併せて検討を進めます。

(2) 小中一貫教育について

【導入の背景と町の基本的な考え方】

～小中一貫教育は取り組むべき事項～

小中一貫教育は、平成17年に、中央教育審議会の「新しい時代の義務教育を創造する（答申）」において、現在の社会情勢の中で求められる新たな義務教育の姿が示されたことが起点とされています。小学校と中学校が共に義務教育の一環を形成する学校として学習指導や生徒指導において互いに協力し、責任を共有して目的を達成するという観点から、双方の教職員が義務教育9年間の全体像を把握し、系統性・連続性に配慮した教育活動に取り組む機運が高まり、各地域の実情に応じた小中一貫教育の実践が増加してきた側面があるとされています。

岡垣町においても、これらのことを受け、小中一貫教育は取り組むべき事項として捉えています。

【町の取組と短期的な展望】

～現在の取組を継続的に実践～

現在、町内の小中学校においては、小小連携、小中連携、保幼小連携など、切れ目のない教育や児童生徒への支援に努めています。これらの取組により、教職員は小中学校での児童生徒への支援・指導の在り方の違いを相互が認めた上で学び合い、児童生徒に対する理解がより深まるとともに、指導方法の改善が図られるなどの効果が出始めています。

よって、短期的には現在の取組を継続的に実践していくこととします。

【中長期的な展望】

～20～40 年先といった中長期的な展望として義務教育学校等を検討～

小中一貫教育を更に推進する上では、施設整備の際に「施設併設型の小中一貫校」や「義務教育学校」を導入することが考えられます。

義務教育学校は平成 28 年度に制度化されたもので、実践事例が少なく、義務教育学校での教育課程を修了した生徒の心身の発達やその後の進路にどのような影響があったかなど、現時点では十分な効果検証ができない状況です。

また、現時点における児童生徒数や学校施設の整備状況などに加え、通学区域が変わることの影響や、より大きな学校用地を確保する必要があるなど、事前に解決すべき課題があるため、すぐに義務教育学校等を整備することは困難な状況です。

従って、義務教育学校等の導入の検討は、20～40 年先といった中長期的な展望として進めていくこととします。

（３）岡垣中学校の施設整備について

～現地での建替えとし、将来的なレイアウトを検討した上で早急に整備～

岡垣中学校は建築年が最も古く、令和 13 年度で築 70 年となります。耐震補強等により施設の安全面は維持しているものの、廊下の軋みや教室の雨漏りなど老朽化が進行し、生徒や教職員にとって良好な教育環境とは言い難い状況にあるため、早急な建替えが必要です。学校の適正規模や将来的な展望を踏まえ、他校との合築等はせずに現在の敷地内で建替えを進めることとします。

なお、新しい校舎の建設に際しては、今後の児童生徒数の推計や建設地の敷

地条件などを考慮した上で、校舎の構造や規模、新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方、機能的なレイアウト等工夫検討し、その上で、早期に建替えを進めることとします。

5. 今後の検討の在り方について

岡垣中学校の施設整備については、基本方針に基づき計画的に進めていきます。

次に建築時期が古い学校として、内浦小学校・吉木小学校・戸切小学校が挙げられます。これらの学校については、老朽化が進行しており、施設面での対応の検討が必要です。このことについては、学校施設の適正配置（小規模校の在り方を含む）と併せて具体的な検討を進めます。

なお、取りまとめには一定の時間がかかるため、次年度以降に速やかに検討を開始します。